

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	
施設名	石原ここの保育園
施設所在地	墨田区石原三丁目 5-7
法人名	株式会社ディアローグ

1. 活動のテーマ

<テーマ>

テーマは【ことば】

今年度も「ことば」をテーマに、子どもたちが多くの言葉に触れながら興味関心を広げ、好奇心を育む活動を進めていく。英語と日本語が生活の中に自然に取り入れられ、日常に馴染んでいくことで、さらに親しみを持って他者と関わろうと意欲を育んでいく。

<テーマの設定理由>

これまで保育の中に英語活動を取り入れ、子どもたちの生活の中に英語が馴染んでいくように実践してきた。そこにさらに子どもたちが英語ばかりでなく日本語、その他の言語にもっと興味を示し、自ら知りたいと好奇心を持って楽しんでいけるようにと、昨年度は活動をすすめた。今年度は3歳児の取り組みとして、室内での遊びだけではなく、戸外への散歩などで当たり前にある周囲の状況を環境の一つとして設定し、その中で英語への興味を深め、日本語とともに遊びや生活に生かしていくようにすることを目指している。

2. 活動スケジュール

6月より月に1回程度、すくわく活動の時間を、英語レッスンタイムとは別に設定していく。

12月までに5回程度活動日を設ける。（各クラスはレッスンタイムの中で「オノマトペ」を取り入れながら、言葉の楽しさを知ることができるようしていく。）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

3歳児=室内、戸外ともにその場にあるもの、また講師や保育者も環境の一部として設定する。特に戸外は散歩に英語講師も同行し、その場そのものを環境として取り入れていく。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

【R7年6月9日】 参加園児 3名 保育者 1名 講師 1名

午後の散歩に出かける。散歩の道中、また公園など、周囲の物を見ながら英語（英語講師）や日本語（保育者）で問い合わせながら、言葉のやり取りや知ることを楽しむ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

散歩の中で周囲にあるものについて問い合わせていく。まず、園から出て紫陽花をみつける。講師が「What do you see?」と指差し尋ねると「あじさい」の答えが返ってくる。「What color?」には「ピンク」「むらさき」と答える。再度問われ、英語で問われたと分かりひとりが「パープル」と答える。また、葉を指して「グ」とヒントを出されると「グリーン」とまた別の子が答える。少し進んだところの花壇を見ると、別の子が「グリーン」と自ら発する。講師がそれに答えて「All green」と返すと、皆真似して言っていた。

公園では、6月の英語レッスンの中で出て来る「jump」「run」「kick」をやってみることとなり、講師の合図で走ったり、ジャンプしたりしながら、言葉を体感してみる。さらに「What do you see?」周囲のものに目を向け、木に触れながら講師が「Tree」と教えてくれる。また木を「One,two,three~」とカウントし始めると、子どもたちも声に合わせ同じように「One,two…」と声に出していく。遊具もカウントしたり、数や色についてやり取りしながら英語を楽しむ。

散歩途中大通りに出る

と、「Bus,Car,Bicycle」など知っている単語を子どもたちが発している。



※撮影者
保育者（担任）

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

英語のレッスンで覚えた単語などはよく覚えており、講師とのやり取りに日本語を交えながらも、自ら発音しようとする姿が見られた。保育者がヒント的な言葉かけると、答えようとする意欲が見られた。レッスンで教えられるだけでなく、周囲のものを見ながらやり取りをする時間を持ち、楽しさが言葉の獲得には影響していると感じた。楽しい時間を講師を加えながら、すくわくtimeとして設定していきたい。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

【10月3日】 園児 8名参加 担任 1名 英語講師 1名

日進公園への散歩。散歩途中に見えるものについて知っているか問い合わせたり、子どもたちからの発言や問い合わせを受け止め、日本語、英語をつなぎ合わせ、言葉を知ることや言葉のやり取りを楽しむ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

園を出てプランターに育つどんぐりの苗に目を向けた。またすぐそばに植えている朝顔を見つけると、「これはなんて言うの?」という問い合わせが、英語講師に向けてあった。「morning glory」と教えてもらうと一人の子が真似て発音をしていた。歩

いていく途中で近隣に停めてあった自転車を示し、講師が「what's this」と問い合わせる。3名ほどの子がネイティブ発音で「bicycle」とすぐに答えていた。また車の色を英語で問い合わせると、すぐに「blue」と元気に答える。

公園では遊具で遊びだし、講師や保育者と日本語、英語を織り交ぜ、やり取りをする。クライミングの石の色を、英語で指示してあげると理解し、その石に足を置いて渡ったり、お店屋さんごっこを始めた女児グループに、保育者が声をかけると「ごはんだよ」と声をかけてくる。何を作っているのか問うと「カレー」との返答。英語講師も「Oh Curry」と興味を示すと、それに合わせるように発音を真似して繰り返す様子が見られた。保育者が葉っぱをお金に見立て買いに行く。葉っぱは何というか知っているか問い合わせる。子どもたちから「なに?」と聞く声があったので、「leaf」や雑草の葉っぱは「grass」と教えてもらうと、手に取り葉っぱを眺める姿あり。持っていた葉っぱを数えだしたので、英語で講師や保育者と一緒にカウントしている。

帰り道でも、来た時のやり取りを思い出し、自転車を「biycle」と言い出す子もいたので、同じように周辺で見つけた花などを講師が英語で教えてあげると、真似して繰り返して声にしている。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちは覚えた英語を使いたい、英語で伝えたいという思いがあったが、自然に言葉が出来るようになってきた。保育者だけが付き添う散歩では日本語しか出ないが、英語講師が一緒だと、英語を聞き取り、ネイティブ発音で真似をしたり、答えたりする様子も見られてきた。講師がいることが英語を話す環境と、子どもたちも捉えているように感じる。英語を使おうとする意欲が見られる。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

【10月10日】園児数 4名 保育者 2名 英語講師 1名

大横川親水公園に散歩に行く。散歩のコースを選び、周囲の環境を変えて、子どもたちの興味を誘う。周囲の者や状況について問い合わせながら、英語と日本語でのやり取りをしながら、もっとやり取りを楽しんで、様々な言葉を知ろうとする。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

4名のメンバーで散歩に出る。少人数で出かけることでリラックスした様子も見られ、園を出ると早速周囲の草花に目を向けていた。花の色や草花の名前を講師に「What's color?」と問い合わせ、「purple」「white」等と答えやり取りを楽しんでいる。保育者も花の色を繰り返し声に出て、花がきれいだねと共感している。道の途中の米屋の前に来ると1人の子が「いい匂い」と言う。担任が何の匂いか聞くと「ごはん」と答える。講師が「rice」というと、他の子たちも「rice」と口々に発音する。自然に繰り返す様子は、給食の献立を英語でいう時と同じ様子が見られた。

公園では蝶々が飛んでいるのを見て1人が「butterfly」と指さしながら言う。他の子もそれに続いて復唱するように言い出す。講師から「duck」「pigeon」はどこかと英語で問われるが、単語は聞き取り復唱していたが、質問は聞き取れていなかった様子。その後、カモを見つけると「One,two,three」と英語で数えていた。またどんぐりを発見する。何ていうのだろうと問いかえると、講師に尋ねる様子あり。

「acorns」と聞くと、担任が発音すると子どもたちも真似ていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

まず、英語講師との散歩に行くことを知る喜ぶ様子があった。楽しい時間になっている。知っている英語を使い話すことが、担任か講師かで子どもたちが分けている様子あり。またまだ自分発信は少ないが、問われると単語をよく知っている子は、得意気に色や数を答える姿が見られる。繰り返し目にするものはよく覚えており、講師がいない場でも「花はフラワーだよね」と担任に声をかけてくる子もいる。日常の中に物の名前を英語でも覚えており、問われなくても言葉にしようとする様子が少しずつ見られるようになってきた。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

【11月7日】園児数 5名 (欠席3名) 保育者数 2名 英語講師 1名

英語指導の中で乗り物「plane, bus, boat, track, car」や数[1~10]、色について学ぶ。

散歩は日進公園に散歩に出かける。今回は学んだものが直後の散歩でどれくらい興味を持ち習得できたかなどみながら、英語と日本語でやり取りの中で、子ども達からの言葉を引き出してみた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

5名のメンバーで散歩に出る。園を出ると近隣の花壇の花を見て「orange」と花に近づいていく。英語講師がいることで、色や自分が知っているワードは英語で使おうとするようにもみえた。講師が

「yes」と言ってから、そばにある別の葉を指し「leaf」というと数人が真似ていた。前回も出てきたワードではあるが覚えてはいなかった。別の児が「これは何ていうの?」と紫式部の花を指さしている。講師が「what's color?」と聞き返すと別の子が「purple」と即答していた。その後も別の花壇を通過すると講師の質問に色を正確に答えている子が多かった。

公園に着き、異年齢児が砂場にいるので「落ち葉を拾って持って行ってあげよう」と声を掛けると1人の子が「これは何色?」と聞きに来る。黄色とオレンジがグラデーションになっている葉で講師が「yellow and orange」と答えると自分が思っていた答えと同じと納得したようにうなづいていた。以前に比べ、「これは何」と聞き返す様子が増えてきているようにもみえた。

砂場に移行すると、講師に「いっしょにやろう」と1人の子が声を掛ける。バケツに砂を入れながら、「1, 2, 3, ~10」と英語でのカウントをはじめは復唱していたが、数えていくうちに最後の方で交互にカウントしていた。「言っているね」と担任がほめると嬉しそうに笑みがこぼれていた。他にもたまたま空を見上げて飛行機を見つけた保育者が「あれなんだっけ」と問うと1人がジェスチャー付きで「plane」と答えたり、羽ばたく様子からちょうどちょを連想して「butterfly」と言って走り出していた。帰り道でもcar, bicycle, track, busと次々に言いながら歩いていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

いつもの散歩道であっても、担任と講師では使う言語が違うという認識が出来ているようだ。

今回は、英語指導の直後であったことや、繰り返し実物を見ながらの散歩というところで、数多く英語で得意げに答えていた様子が見えた。生活に密着した物や日々目に触れる色、数といった簡単な単語からではあるが、自分も英語(単語)を発しているということ、それが伝わる楽しさなどが子どもたちからは感じられた。この楽しい体験を継続していけたら良いと思う。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

【12月26日】 園児6名（欠席2名） 保育者2名 英語講師 1名

・今年度のすくわくプログラム活動「英語で散歩」を実施。公園までの道のりで見つけたものや、公園での鬼ごっこを英語と日本語を交えながら楽しむ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

・玄関での散歩確認を講師に呼名してもらう。子どもたちは名前を呼ばれると「I,m here」と皆答えていた。出発してすぐ講師が「what do you see」と問いかけると、ひとりが車を指差し「blue」と答える。講師が「blue car」と返す。するとまた別の子が「black car」と別の車を見つけ発する。公園までの道のりで、いろいろなものを見つけ講師とともに英単語でやり取りする。

公園では保育者が「water bottle~」と声掛けすると水を飲み始めており、日々の流れの中の行動であれば、英語での声掛けでも聞き取ることができていた。

保育者が「何をして遊ぶ？」と問いかける。子どもたちから「いろいろなにいろ」（鬼ごっこ）をしたいと出る。講師とは英語のみでの会話であるため、「いろは？」とヒントを出すと「colore」と気づく声が上がる。講師から「what,colore see？」と返され、それだとしぐさで示していた。

鬼決めをする際は、子ども達の決め方（足をそれぞれが出し「おにきめ、おにきめ、おにじやないよ」と指で差しながらあてられた人が抜けていくルール）をしてみる。講師も交えながら決める。するとたまたま講師が鬼になる。「鬼はなんていう？」と保育者が聞くと「dimon」とジェスチャー交じりに教えてくれ、子どもたちもそれぞれに真似で言っていた。

「what,colore see」の掛け声を皆で大きな声で言い合い、鬼がpink, orange, green, blue, purple, white, black, brownなど指名しながら行う。子ども達も指名された色をきちんと探して素早く見つけに行く遊びを、講師や保育者とともに笑いあって何度も繰り返す。

鬼がなかなか答えない時には「see」ではなく「say」だと講師から声掛けされると、それも応じながら楽しむ。このような遊びが15分ほど続き、帰りも英語で言葉を見つけながら戻る。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

戸外の環境を使い、散歩をしながら対話の中で英語・日本語を楽しんできた。覚えた言葉や初めて知る言葉も自然な流れで発したり、対する人が英語を使うならば英語、日本語ならば日本をと聞き分けて会話をしようとする姿が見られた。また楽しいことには、臆することなく興味があれば関わろう、知ろうとする様子があった。室内外問わず、普段の生活の中に子どもたちの好奇心をはぐくむ要素がたくさんあり、これからもどのように使っていくかを考えたい。今後も英語のカリキュラム生かし、英語・日本語に興味を深められるようにしていきたい。